

学年とびこえ ぎゅぎゅっとキャンプ(ボランティア自主企画事業)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

他学年との集団行動を通して、自分で考え行動することができる青少年を育成する。

○ 実施期間

令和元年12月14日(土)～令和元年12月15日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員/申込者)

小学1～6年生 (74名/70名程度/221名)

○ 活動プログラム

	12月14日(土)	12月15日(日)
午前	9:00 送迎バス 出発	朝のつどい 朝食 食材ゲットだぜ! ランチハント
午後	受付 昼食 はじまりのつどい ぎゅぎゅっとチャレンジ(アイスブレイク) みんなであそベンチャー(大運動会) タベのつどい	昼食(調理) おわりのつどい 14:30 送迎バス 出発
夜	夕食 仲間でわいわい、ゲームでわっしょい!! 入浴・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

アイスブレイクで緊張をほぐして班の友達と仲良くなった後、体育館での「みんなであそベンチャー」を行った。小学生全学年が集う事業となったので、低学年でも取り組める、高学年でも飽きが来ない工夫を凝らしたゲームを実施した。



夜のプログラムは体を動かさずアクティビティを行わず、穏やかな活動としてパネルを用いた記憶ゲームを設定した。チームで力を合わせ、自分の担当を決めて複雑な形と並べ方を再現していった。グループリーダーのボランティアが次々と出題するパズルに挑戦しながら、チームの絆を深めていった。



<2日目>

昼食に向けての「食材ハント」のためにミッションラリーを行った。施設内に分散して設置されたミッションブースで協力して課題を達成し、食材の手掛かりとなるピースを集めた。難易度の高い課題もあったが、子供たちは協力して回答を見つけ出していった。他の班とも連携しながら、参加者全体でミッションに取り組む工夫も随所に見られた。



手に入れた「豪華なサンドウィッチの具材」をもとに、セルフメイドのサンドウィッチづくりを行った。食味や食感を想像しながら、パンからはみ出すほどの具材を載せる子供や、具材を厳選してシンプルに作り上げる子供など、創意工夫にあふれたサンドウィッチが食卓に並んだ。自分だけのサンドウィッチを口いっぱい頬張り、楽しかった2日間の思い出話を語りながらの楽しい昼食となった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・いろいろなげーむにちょうせんするところが楽しかった。(1年生)
- ・6ねんせいがかちがえてわたしがこたえをおしえてすごい!!ってほめられたのがうれしかった。(1年生)
- ・みんなとはなしたりおぼえたりあそんだりくいずやうんどうをしてたのしかったです。(2年生)
- ・みんながぼくのことをよんでくれるのがうれしかったです。(2年生)
- ・みんなで(班で)協力できてよかった。(4年生)
- ・今回初めて参加したけど分からないことがあったらやさしく教えてくれたからうれしかった。(4年生)
- ・始めは全ぜん仲良くなかったけど今日は仲良くなって楽しかった。また来たいです。(4年生)
- ・ねるときに全ぜんしらないのに友だちになれたのでよかった。また来たいです。(5年生)
- ・はじめはみんながバラバラで思い通りにすすまなかったけれど、この二日間でみんなが一つになって協力できてよかったです。他の班の人とも話したり楽しむことができました。行動するときは自分だけじゃなく他の人も楽しめるように考えることができました。みんなで協力して思いっきり楽しむことができ最高の2日間でした。(6年生)
- ・学年の同じ子や違う子でもとても仲良くできた。リーダーの人たちもやさしかった。みんなで協力しあい楽しい時間を過ごせた。(6年生)

○ 事業の成果

- ・今回の自主企画では初の試みとして参加対象を小学1~6年生とした。ボランティアリーダーは対象者全体が楽しめる内容とするために、様々な趣向を考え、また運営方法についても事前の検討を重ねて当日に臨んだ。十分な準備の成果もあり、当日は大きなトラブルもなくスムーズな進行であった。
- ・これまで当施設での事業では参加の機会が少なかった小学1~3年生が対象となったことで、70名程度の募集に対して221名の応募があり、参加決定者を増員して対応した。

○ 事業の課題

- ・組織形成、意思決定プロセス形成のスキルに乏しい大学1・2回生が主体となるため、スムーズな運営が行われるためにも職員側の支援が重要となる。本年度は比較的スムーズに進行したが次年度以降も有効な助言・指導ができるように支援を継続していきたい。
- ・本年度は大学1回生登録者52名のうち17名(参加率33%)の参加であった。冬の自主企画に参加したボランティアリーダーは今後も精力的に継続して活動するケースに直結するため、次年度も自主企画への積極的な参加を呼びかけていきたい。
- ・ボランティアリーダーが創意工夫を凝らした企画内容ではあるが、その回限りの一過性のものとなっている。今後、自主企画で行われた内容の中で優れているものは恒常的に研修支援で役立てていく取り組みも必要である。
- ・本年度も突発的な別事業があり、場所調整を含めボランティアリーダーに大きな負担をかけることとなった。種々の事情や制約はあるが、ボランティアが最大限の力を発揮できる環境を整えるための理解が必要であると考えます。